

ちよんじうご

第二三〇号 時の流れに

平安時代から始まったと言われる、彼岸の先祖供養もさせて頂き、ご先祖様も満足されました

ことでしよう。三月には「遠き別れにたえかねて この高殿にのぼるかな 悲しむなかれ 我が友よ旅の

衣をととのえよ」と歌う。李白の詩には「青山北郭に横たわり 白水東城を遶る 此の地一度別

れを為し孤蓬（一人寂しく）万里に征く浮雲 遊子の意落日故人の情 手を揮ってここより去れば

蕭蕭として 斑馬鳴く、で別れを悲しみ、四月間近になれば「さくら さくら 野山も郷も見渡す限

り霞か雲か 朝日に匂うさくらさくら花ざかり」と、自然界に桜咲き誇り、山も緑に、春の息吹を感じ

させてくれます。「城春にして草木深し」と詩われたように、どの様に社会情勢が変わっても、時期が来

れば、自然は蘇ります。最近では登山ブームで外国からも多くの方が富士山に登られます。世界では九千

メートル級の山もございいますが、仏界では御経に「須弥山という山があります。この山は、仏教宇宙観で

説く立方体の山で高さ八万由旬あります。一由旬が約七キロですので、その大きさは、想像すらできませ

ん。山の頂上には帝釋天様が、お住みになってみえます」。佛様の支配される世界は大きく偉大です。

何よりも大きな今年のニュースは元号が五月より新しくなる事です。主権の存する日本国民の総意に基

づき、皇太子殿下（徳仁親王）が新しい天皇として即位されます。新しい元号は万葉集から引用し【令和】

元年（七〇一）から今日に至るまで元号が記録されなかった年は無いそうです。又、世界でも珍しく日本

だけの表示だそうです。新しき元号の元、果たして時の流れに身を任せて行けるでしょうか。良き時代で

ありますように切望いたします。

我々が社会生活をおくる中で守らなければならないルールがあります。それは正しく生きるためのもの

です。諄いを戒める為に佛様がお示し下さった教えです。身と口と心です。この三つが善悪を引き起こし

ます。この三つの事を三密とも三業とも言います。事は同じで立場が違うだけの事です。三密とは佛

の立場であり、三業とは我々衆生の立場です。我々は「身と口と心」が間違いを起こすことが無いように

判断できるように修行しなければいけないと言う事です。心に迷いあれば善悪の判断に支障が起きやすく

喜怒哀楽の情に惑わされやすくなります。萩原朔太郎ではありませんが「わがこころは、いつもかくさび

しきなり」、ではなく、心は無心にし、判断に誤りなく、事の成就を願います。信仰は我が身を助けます。

明恵は睡眠と雑念が邪魔をすと言っています。それでも佛は常に我々を見守り、それることが無いよう

に救済する立場であられる訳です。法然上人も「父母の慈悲あればとて、父母のまえにて悪を行ぜに、そ

の父母よろこぶべしや、なげきながらすてず、あはれみながらにくむ也。佛も又かくのごとし」と、仰せ

に成りました。衣・食・住のどれが欠けても不足になり、生活が乱れます。

二十一日に油掛地藏様の大祭がございます。此の大祭では地獄・餓鬼・から天上まで六道を巡りその

御札を頂き、身の保証を閻魔大王様から認印していただきます。命終には此の御札がフリーパス券となり、

安心して極楽の門を叩ける事になります。芽出たし。

善入院の寺子供塾もご利用下さい

三十一年四月一日

善入院油掛地藏尊